

# ウィズコロナ下の 欧米都市事情

井澤 知旦



コペンハーゲンの静 カステレッド要塞の緑

コペンハーゲンの動 ニューハウンの町並みとカ



ここ三年ほどはコロナ禍でほとんど海外視察ができなかったが、日本でのコロナ第七波と第八波との狭間に欧米諸都市の視察を行った。視察テーマは「公共空間の活用とそのネットワーク」を掲げている。その実情はコロナ前と大きく様変わりし、疲弊した都市をウィズコロナで活性化しようとしている。その実態を紹介する。

## はじめに

今から三十五年前の一九九七年に世界都市景観会議が名古屋で開催された。公共空間における人々の集散も景観の重要な構成要素であるとの考えのもと、欧米六都市の公共空間活用の実態とルールを事前に調査した。その後どのように変化したのかを十年前の二〇一二年に同じ六都市を対象に、そして昨年の二〇二二年の夏にさらに七都市を加えた十三都市を視察した。これらを通じて第一に三時点での変化を定点観測することができること、第二に欧米都市の同時点での実態を比較検討することができることが本報告の特徴である。

### ① 疲弊するアメリカ西海岸都市

一般的に西海岸三都市（シアトル、ポートランド、サンフランシスコ）はコロナ禍とブラック・ライブズ・マター（BLM 黒人差別抗議運動）の影響で都市が疲弊し、現在まで経済回復していない。とくにポートランドはBLMの拠点都市となり、破壊された窓や壁の落書き、歩道上でのホームレスのテントが目立っていた。ガラス面を

多く持つアップルストアは現在でもバリケードの中にある。飲食店の廃業が多いが、残存するカフェは車道上のパーキングエリアを使ったストリートシート（車道駐車転用座席）が至る所で見られ、なかには自動車交通を排除したストリートクローズドが設定されている。

サンフランシスコも同様に大きく様変わりし、パークレット（車道駐車転用空間）をコロナ対策用の屋外レストランとして拡大利用している。暫定利用のためか、質はよくない。これまで運営されていた時間限定利用のランチタイムカフェ（正式にはストリートオープン）は現在もあるが、エリアのレストランが撤退したため、単に簡易なイスとテーブルが置かれた空虚な場所になっている。

### ② 欧州カフェ 定点観測

定点観測都市のうちここではパリとコペンハーゲンをとりあげる。パリのシャンゼリゼ大通りにあるフーケ。三十五年前のルーズなオープンカフェからルール厳密運用のカフェ、そしてコロナ禍で囲い込まず、ゆ



るやかなカフェへと変化してきた。コペンハーゲンではゆったりとしたカフェから席数を拡大したカフェ、そして外から見えない囲い込みカフェとなった。これは地価に見合ったカフェを経営するには席数を増やしたり、高級感を出したりすることで客単価を上げるためではないかと考える。

### ③ CO<sub>2</sub>削減と公共空間

欧州諸都市は環境問題に敏感であり、様々な取り組みが行われている。例えば人々の移動を自動車からCO<sub>2</sub>の削減につながる自転車へ積極的に転換しようとしている。アムステルダムでは自転車の交通機関分担率が二十七%を占めて自動車を抜いてトップとなった。コペンハーゲンでは自転車が五十%を超える通勤手段となっている。すると駐輪場が求められるが、アムステルダムでは駐輪場が不足し、街中に自転車があふれて都市景観を破壊している。コペンハーゲンでは整然と駐輪され、オスロでは個人所有の自転車よりもシェアリングバイクが中心となっている。受け止め方は都市それぞれである。

### ④ パサージュのネットワーク

欧州では人々が快適に楽しみながら歩き回れる装置として、建物内または建物間に通路（パサージュ）と店舗を設けている事例が多い。プラハでは街区内および街区間でパサージュのネットワークが組み込まれている。大街区

ゆえに道路延長距離が短くなり立地店舗が少なかったり、街区の向こう側へ移動するのに距離が長くなったりすることを解消し、さらに冬場の買い物空間の防寒対策のために整備される。北欧のヘルシンキでも顕著に見られ、パリでは数は多くないが由緒あるパサージュが存在する。パサージュ・パノラマは名古屋の円頓寺商店街と友好提携している。ミラノのガレリアも十字のパサージュで構成されるが、一等地にありながら八十四区画のうち十六区画が閉店している。これはコロナの影響であろう。

### ⑤ 屋上の公共空間活用

大規模な公共施設はその屋上も使いようによっては市民のシビックプライドを高める空間となる。サンフランシスコのバスターミナルと商業の複合施設セールスフォースでは都心のビル群の谷間の公園（二・二 ha）に、コペンハーゲンの廃棄物発電所コペンヒルでは迷惑施設を人工スキー場（九千㎡）とハイキングコースに、オスロのオペラハウスでは港の見える展望台に活用されている。コペンヒルは迷惑施設を健康増進+環境教育+娯楽施設へ転換しているのだ。インパクトは大きい。

### おわりに

ここでは書き切れないほどの情報を得た都市視察であった。別の機会に発表していきたい。

（名古屋学院大学海外短期研修の成果の一部を活用した）



駐輪場と都市景観

屋上空間の有効活用

コペンハーゲンのカフェ

パリのカフェ

サンフランシスコのランチタイムカフェ



ヴァーツラフ広場 プラハ

夜のカフェテラス ウィーン

パサージュ・パノラマ パリ

ストリートクローズドとアップルストア ポートランド